

# 天体スペクトルに関する参考書

加藤 賢一（大阪市立科学館）

筆者の手元にある日本語の参考書をいくつか挙げてみた。単行本としてまとまったものが少なく、日本語でこの分野を勉強するのはずいぶん不自由なようである。

◆は特に重要と思われるものである。

## 1. 観測機器、観測法など

- ◆「宇宙を観るⅡ〈応用篇〉」 横尾武夫編 恒星社 1991年  
光電、分光、CCD、画像処理と最新の話題まで扱った実用の書。観測データを扱う人は最低知っておかなければならない知識が満載されている必見の書。
- ☆「宇宙の観測Ⅰ」 現代天文学講座11 西村史朗／海部宣男編 恒星社 1981年  
光電、分光、恒星直径測定法などの概説あり。
- ☆「反射望遠鏡」 山下泰正著 東京大学出版会 1992年  
分光器のこと
- ☆「太陽観測」 アストラルシリーズ7 清水一郎編 恒星社厚生閣 1983年

## 2. 恒星スペクトルの解釈

- ◆「現代天文学」第2版 A. ウンゼルト著 小平桂一訳 岩波書店 1978年  
天体物理学の標準的入門書
- ◆「現代の太陽像—太陽物理学序説」 E. G. ギブソン著 桜井邦朋訳 講談社 1978年  
放射の輸達について詳しい。恒星スペクトル解釈の基礎を与える。この分野では日本語で読める数少ない貴重な書。
- ☆「恒星の世界」 現代天文学講座6 小平桂一編 恒星社 1980年  
恒星についての基礎的事項をまとめてある。恒星スペクトル解釈のために把握しておくべき事項が盛られている。
- ◆「原子スペクトルと原子構造」 G. Herzberg著 堀健夫訳 丸善 1964年  
原子のスペクトル線の形成に関する基本的事項から解説した書。

## 3. その他

- ☆「星の色」 大沢清輝著 地人書館 1984年  
測光法のエッセンスとその面白さが分かる